

医療体制整備部会～検診受診率10%アップ、適正医療の推進～

- **感染症発症予防、重症化予防**
 - 肺炎球菌予防接種（任意）助成事業
 - 目標値：平成30年度に65歳以上の接種率65%
- **検診の受診医療機関の拡大**
 - 市内医療機関でのがん検診（胃・大腸・肺）実施
 - 目標値：受診率 胃20%、大腸25%、肺25%
- **働く世代からの口腔ケア**
 - 口腔内衛生の啓発活動や企業の歯科検診の現状把握、かみかみ百歳体操の普及
 - 目標値：健康フェスティバル参加者300人

待機児童ゼロ部会～待機児童ゼロ～

- **放課後児童クラブの運営**
 - 待機児童解消のため、施設改修による定員増と民間保育所を利用した放課後児童クラブの活用
 - 目標値：小学1～3年生までの待機児童0人
- **保育士・放課後児童支援員の確保**
 - 保育コンシェルジュを利用した潜在保育士への情報提供、放課後児童支援員らの処遇改善
 - 目標値：新たな就職者10人
- **認定こども園整備**
 - 総社保育所と井尻野幼稚園の認定こども園化
 - 目標値：平成31年度開園

発達障がい児支援部会～就業率の把握・10%アップ～

- **教育と福祉の連携体制の充実**
 - 基幹相談支援センターと特別支援教育推進センター（きらり）が連携し、障がいのある全ての子どもに対応した切れ目のない相談機能を充実
- **特別支援教育推進センター（きらり）の本格稼働**
 - 教育的ニーズに応じて個別または少人数での指導を行い、障がいによる生活や学習上の困難さを改善・克服を目的とした情緒障がい通級指導教室を開室
 - 教育支援コーディネーターを配置。関係機関との連携推進と教職員への指導を充実
 - 特別支援教育に関わる教育相談や巡回相談を行う相談員を増員し、相談機能を強化
 - 目標値：幼稚園・保育所・小中学校への巡回相談件数450件以上

高齢者見守り台帳のシステム化

これまでの見守り台帳を電子データ化し、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の実態把握のためのシステムを今年度導入しています。このシステムを活用して支援が必要な高齢者の生活実態を把握していきます。また、災害時における高齢者・障がい者・子育て世帯・外国人などの要配慮者の把握にも活用していきます。

問い合わせ 長寿介護課地域ケア推進係 (☎8213)



ひきこもり支援部会～ワンタッチ207～

- **ひきこもり支援センター（仮称）の設置**
 - ワンストップの相談窓口を設置し、切れ目のない相談体制を整備（相談員2人を配置）
 - 目標値：支援開始50人
- **サポーターの養成**
 - 支援活動を行うサポーターを養成。自立した人が支援者となるピア（当事者）サポーターも養成
 - 目標値：サポーター養成40人
- **居場所の設置**
 - 社会へ踏み出す出発拠点となる居場所を、既存施設を利用して設置
 - 目標値：下半期の開設回数24回
- **ひきこもり予防**
 - 不登校児童の状況把握と児童へのアプローチ、ひきこもり支援予防員（仮称）の配置
 - 目標値：不登校出現率（平成32年度末）
小学校：0.33%⇒0.28%以下
中学校：1.61%⇒1.50%以下

高齢者支援部会～孤独ゼロ見守り100%～

- **高齢者見守り支援台帳整備**
 - 未把握高齢者を把握し、要援護者を一元管理
 - 目標値：市内把握率100%
- **配食と声かけによる日常支援と孤独感の解消**
 - 食の確保と日常の声かけを目的に配食サービスを充実
 - 目標値：年間21,600食
- **居場所・生きがいがづくり（男性の社会参加促進）**
 - 60歳からの人生設計所を活用した社会参加の促進、生きがいがづくり
 - 目標値：高年齢就業者・創業者1000人
- **GPS装置導入経費助成**
 - 目標値：30人
- **SOS声かけ訓練**
 - 目標値：4か所
- **認知症カフェの開設支援**
 - 目標値：15か所
- **若年性認知症患者の就労支援**
 - 目標値：ニーズ調査…全員、就労…2人



全国屈指福祉会議。各部会から来年度の重要施策の報告が行われた

全 国屈指福祉会議を1月27日に総合福祉センターで開催。昨年11月に開催した今年度1回目の会議で示された検討案件事項を踏まえ、「高齢者支援部会」、「医療体制整備部会」、「発達障がい児支援部会」、「待機児童ゼロ部会」、「ひきこもり支援部会」の5部会が来年度の重点施策などを報告しました。

ひきこもり支援部会は、市内に少なくとも207人いるとされるひきこもりの人が社会に踏み出すための整備を行うため、相談員2人を配置した「ひきこもり支援センター（仮称）」を設置。支援開始50人を目標にするほか、ひきこもり支援サポーター40人の養成、

安心して利用できる居場所づくりなどを行います。

高齢者支援部会は、見守り支援台帳を整備し、民生委員や福祉委員、地域包括支援センターなどと連携して、高齢者の実態把握100%を目指すことや、SOSメールを活用した認知症SOS声かけ訓練を地域で実施すること、若年性認知症患者にニーズ調査を行い、就労支援につなげていくことなどを発表。

このほか、医療体制整備部会は、検診受診率の10%向上、肺炎球菌予防接種（任意）の助成、働く世代からの口腔ケアの推進。待機児童ゼロ部会は、待機児童ゼロの達成や、保育士などの確保、総社保育所と井尻野

幼稚園の認定こども園化。発達障がい児支援部会は、教育と福祉の関係機関が連携を図り、義務教育終了後の実態を把握し、サポートしていく体制をつくることなどを報告しました。

会議には有識者や市職員ら約40人が参加。市長は、「全国屈指を目指すためには、各カテゴリーで何位なのか知る必要がある。調査して、目指す目標を明確にしていきたい」とあいさつ。また、これら一連の施策を今後、「福祉王国プログラム」と称することも発表しました。

市では、人材育成を含めたプログラムに必要な経費を、来年度当初予算案に盛り込む方針です。

重点施策を福祉王国プログラムとしてまとめました。各施策の状況把握を行い、全国1位を目指します。

問い合わせ 政策調整課 (☎8213)

全国屈指福祉会議
福祉王国プログラム2017策定